

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

人権まつり2026に出演しました

2月22日(日)、太宰府市中央公民館(プラムカルコア)で「人権まつり2026」が開催されました。「人権まつり」は、太宰府市で起こった差別事件をきっかけに、わたしたちの人権意識を高め、人権が大切にされるまちづくりを進めていこうという目的で始まったものです。毎年、中学校ブロックで順番を決め、小中学校の代表児童が「人権」に関する内容の歌や呼びかけなどをステージで発表することになっています。今回は、太宰府中学校ブロックの小中学校(太宰府小学校と太宰府中学校)が出演し発表を行いました。



ステージ発表をする5年生

太宰府小学校は、5年生20名がステージで「多様性」をテーマに呼びかけや歌、リコーダー演奏をしました。市民ホールのステージという大きな舞台上、緊張しながらも精いっぱい頑張る姿がとても立派でした。「みんなちがって みんないい」ということが観ている人たちに十分伝わりました。

5年生のみなさん、素晴らしい発表をありがとうございました。

「有難い」ということ

ご存じのことだと思いますが、「ありがとう」の語源は、形容詞「有難(ありがたし)」が変形した言葉で、「めったにないこと」という意味をもちます。何かをしてもらうことを当たり前だと思わないで感謝の気持ちをもちましようという意味があります。

太宰府小学校では、コミュニティ・スクールとして、保護者や地域のみなさんが教育活動を側面からしっかりと支えてくださっています。今週のことだけでも、地域の方による丸付けボランティア、PTA・保護者の方による愛校作業があり、本年度1年間をふり返れば、数えきれないぐらいご協力いただいています。もちろん、地域による見守り活動は、雨の日も風の日も毎日行われています。

子どもたちも教職員も、このような支援を当たり前だと思わないようにしたいものです。「みなさん、いつもありがとうございます。」

ちなみに先日、ある企業の経営者の方と交流する機会がありましたが、その方は、小学校に期待することとして、「挨拶ができ、『ありがとう』と『すみません』が言えることです。」とおっしゃっていました。「ありがとう・有難し」は大切なのですね。



丸付けボランティアさんによる支援



愛校作業(草取りと体育館トイレ掃除)の様子

